

料理系講座が多数行われ、参加者の胃袋を鷲掴みにした年末年始！！

12月と1月は暖冬だといわれていますが、寒さが一段と厳しくなりました。寒さ対策は栄養を摂り身体の中から温めるのが一番。調理系の講座を多数開催しました。

12月4日(水)には、「手づくりパン教室」が開催され、パンをクリスマスリースに見立てて、クリスマスの雰囲気盛り上げました。

講師に小川京子さんをむかえて、生地の手ごね実演を含めて、丁寧に指導して頂きました。今回は、時間の都合で第一次発酵まで終えた生地を講師に持参していただき、以降の作業を参加者で行いました。団子状に丸めたパンを円形に配置して、リースの形にし、紅麴で赤く色づけた生地をサンタの帽子と鼻に見立て成形しました。焼きあがったパンにソーセージやハム、レタスなどの具材を入れて、豪華に飾り付けられたリースのように見た目でも楽しめるリースパンに仕上げました。



12月11日(水)には、アグリライフなりたの諸岡酉子さんに講師をして頂き「クッキング in KOZU 房総寿司」が行われました。房総寿司は、参加者募集開始すると、その日の午前中にはほぼ埋まってしまうほど人気の高い講座となっています。11月に行われた1回目では、「薔薇の花」が作られ、2回目となったこの日に作られたのは、四隅のすじが波紋を表し、四方の海を意味する細工寿司の「四海巻」。謡曲「高砂」の一節に、「四海波静かにて国も治まる時津風・・・」とあるため、祝事に喜ばれます。

四隅はツルムラサキの色素で色付けを行い、海苔で波紋を表すすじを作り、中央に玉子焼きを配置しました。

参加者は酢飯の配合や疑問点などを講師に質問し、熱心さが伝わりました。自宅でも簡単に作れる四海巻、お正月に早速作った方もいらしたのではないのでしょうか。

1月17日(金)には、「味噌づくり体験教室」が行われました。ユネスコ無形文化遺産に登録された和食。その和食の汁物といえば味噌汁。そんな食卓に欠かせない味噌を自分で作って、料理に関する知識を習得してもらいました。

講師の古谷政江さんに指導して頂き、まずは大豆を指でつぶれるまで柔らかく煮た後、マッシャーでつぶし、麴に塩を加えてもみほぐした後、大豆と麴をよく混ぜ合わせました。出来上がった塊を団子状に丸めてビニールに空気が入らないように隙間なく詰めます。最後にビニール袋の中でならし余分な空気を抜いて完成。この後は、8月ごろまで袋の上に重しを乗せて熟成させます。コミュニティセンターで一番、完成まで時間のかかる製作物です。同じレシピで作っていますが、大豆のつぶし方、保管の温度などで味が多少異なるようです。完成まで楽しみが増すばかりです。



1月26日(日)は、男性限定の料理教室「男の料理教室」が開催されました。

近年では、「料理男子」「弁当男子」という言葉が広がっているように料理上手の男性も増えていきます。男性がキッチンに立つ姿は、頼れる男の姿を垣間見ることができ、カッコいいという声も聞かれます。初心者から本格派まで気軽に参加してもらい、料理の楽しさを味わってもらおう「男の料理教室」。今野弥生さんに教えてもらい、今回は「和食」をテーマにいなり寿司、筑前煮、茶わん蒸し、菜の花のおひたし、お吸い物を作りました。初心者の方が自宅でも一から準備できりょうに、調理器具を出すところから、講座はスタートしました。食材を切る、調味料を量るなど、料理に欠かせない作業の他洗い物をするなど料理以外の作業も一つの作業ごとに自宅での応用方法を含めて、真剣に学んでいました。講座は2月の洋食、3月の中華と続きます。

お正月の風物詩といえば餅つきと箏曲演奏と寄席のザ・お正月！

4回目となった「もりんぴあ ザ・お正月」は、公津の杜地域のお正月イベントとしてすっかり定着してきました。「ザ・お正月」は「餅つき」「箏曲演奏」「寄席」の三部構成。「餅つき」では、コミュニティセンターの運営協議会、公津の杜中学校 PTA の OB からなるボランティア「杜の風」の協力のもと、なかよしひろばに遊びにきていた人を中心に参加して頂きました。「箏曲演奏」は千葉県立成田国際高等学校 箏曲部に1階エントランスで「百花譜」や、「春よ来い」「やさしさに包まれたなら」といった歌謡曲を箏曲用にアレンジした楽曲を演奏して頂きました。観客はお正月らしい箏曲の音色に耳をかたむけていました。2階の MORI×MORI ホールで行われた「寄席」では、古典落語・上方落語、5演目で会場に笑い声が響きました。もりんぴあ寄席は8回目となり、毎年楽しみにしているという固定ファンも増えつつあります。



図書館だより

図書館では、昨年12月24日にもりんぴあこづ2階の会議室で「杜のふゆのおはなしかい」を開催しました。絵本の読み聞かせと工作を組み合わせ、特別なおはなし会です。当日は成田市内の小学生31名が参加してくれました。

まずは、席について工作の時間です。小さなクリスマスツリーと洗濯のりが入った透明な容器に、好きな色のラメとスパンコールを入れて混ぜます。水を入れて容器を振ると、中のキラキラした飾りが雪のようにゆっくりと落ちていきます。それぞれ真剣に飾りの色や量を調整し、自分だけのスノードームが完成しました。



後半は、絵本の読み聞かせを楽しみました。演目は、サンタクロースの勤違いが楽しい『まどから☆おくりもの』、なかよしの友達とのパーティーの様子を描いた『きょうはマラカスのひ』、動物たちがクリスマスの準備をする心温まる『クリスマスのちいさなおくりもの』の3つです。

どの絵本も、クリスマスイブの雰囲気ぴったり。物語の展開に合わせて笑ったり声を上げたりと、おはなしに聞き入る子どもたちの姿が印象的でした。冬のひと時、楽しい思い出ができました。



発表会にむけての練習也大詰め！

4月からはじまった「もりんぴあ合唱部」。月1回の練習を続けてきて10回目となった1月の練習では、声に張りも出てきており、音量をだいぶ出るようになりました。更に、曲を理解し、曲にあわせた表現力も増しており、着実にステップアップしています。ソプラノとアルトに分かれての歌唱では、他のパートにつられないようにと必死に音をとる様子が見受けられました。そんな練習の成果が2月24日の「歌声広場もりんぴあ」で発表されます。お楽しみに。



遠くまで届け！紙ヒコーキ教室開催

2月9日(日)に2階MORI×MORIホールで「JAL折り紙ヒコーキ教室」が開催され、46名の子どもたちが参加しました。JALの職員に折り方を説明してもらい、いかヒコーキを作成しました。同じ紙を使い、同じように折っても、折り具合や投げ方が違うためか飛び方が違っていました。一番長く飛んだ子は反対側の壁にまで飛んでいきました。



なかよしひろばだより

親子で絵本を楽しみました

1月に開催した子育て講座「絵本と子育て」に絵本に興味のある親子が大勢参加しました。まずはママたちへインタビューして、「子どものころ読んでよかった本」を聞いてみると「おしいれのぼうけん」など心に残っている本を紹介してくれました。



絵本は小さい頃に身近な好きな人に読んでもらうことで、人や自然と親しみ、感性を豊かにし、子どもの心を支える良さがあることを話しました。またどんな絵本が良いか、子どもの発達に合わせた絵本選びのポイントなどを伝えました。人気の絵本作家のシリーズや訳者についての紹介、昔話や科学絵本など様々な種類の絵本についても、ママたちは興味深かったようでした。おすすめの絵本の紹介は、大型絵本の読み聞かせをしました。大きな絵で迫力があり、親子一体になって楽しんでいました。「おおきなかぶ」では、子どもたちが前に集まってきて絵をみてケラケラと笑いながら楽しんでくれました。



最後に図書館からお借りしたたくさんのおすすめ絵本を自由に手にとって眺めたり読んでみたり、と親子で楽しい時間をもてたようでした。

おまけの1枚



12月22日(日)に「門松づくり実演」が行われました。開館の年より恒例となった、元西中学校校長の小川新太郎さんによる「門松づくり実演」も7回目。ボランティアの方も加わり、手際よく造り上げられ、あっという間に完成しました。通りがかりに立ち止まって見てくれる人や完成した門松で記念撮影する人がいました。

編集後記

自称料理男子のKです。共働きの為、特定のシフト以外の日は料理をしています。(多々サボります)レパートリーが少ないので、今回行われた「男の料理教室」に参加したいくらいでした。焼くだけ、炒めるだけなどの便利食材を多用しているので、作り置きレシピや時短の方法などに興味深々。ただ作り置きレシピ本を買って一度も見ていないのは内緒です(笑)(K) フィレンツェの春の日。ウフィッツィからドーモを抜けて北へ歩きアカデミアに至る。若きダビデを見た後で出会ったのは削りかけのまま残された十字架降下の像だった。晩年の老彫刻家の手になるものかどうかは疑わしいらしいが。「未完なれば救はるるすべなきピエタ。ミケルはここで鑿を置きたり」(T)

公津の杜コミュニティセンター
(指定管理者 アクティオ株式会社)
発行人: 田村 修 編集: 鹿嶋 聡明
〒286-0048 千葉県成田市公津の杜4丁目8番地
TEL: 0476-27-5252 FAX: 0476-27-5353
E-mail: info-kozu@morinpiakozu.jp HP: http://morinpiakozu.jp/

もりんぴあ
こづ
MorinpiaKozu